新年度を迎えて

校長　　安藤　徹

岩戸支援学校の令和６年度がスタートしました。

昨年度に引き続き岩戸支援学校長を拝命し、今年度で通算５年目を迎えることとなりました安藤　徹と申します。どうぞよろしくお願いします。

さて、今年度の岩戸支援学校はＡ部門（肢体不自由教育部門）に６名、Ｂ部門（知的障害教育部門）に 51 名の計 57 名の新入生を迎えることとなりました。また、部門ごとの生徒数はＡ部門が 20 名、Ｂ部門が 127 名で、昨年度に比べＡ部門の生徒数が５名増加となり、学校全体では昨年度比５名増の 147 名の生徒が在籍し、４月５日に今年度の学校生活がスタートします。

また、令和６年度の岩戸支援学校は開校から「15 年という一つの節目の年」を迎えます。

15 歳という年齢を人間に置きかえてみますと、青年前期から後期へと移行する重要な時期となるわけですが、まさしく岩戸支援学校に通学している生徒の皆さんと同じように、学校自体もこどもから大人へと変化していくために今までの岩戸支援学校の教育活動を振り返り、学校としての強みや弱みを整理しながら、社会や地域の中で岩戸支援学校がこれからどのように生きていくのか、今後の進路を考えていくために大切な１年になるのではないかと考えております。具体的には「見える化」「わかる化」「できる化」を大きな柱として、「つなぐ」「つながる」をキーワードに、昨年に引き続き様々な物事を持続可能なものにしていく、つまり今後に継続・継承していけるような教育活動を展開していきたいと考えております。

また、昨年４月１日より校名を「岩戸支援学校」に改名したこと、そして新型コロナウイルス感染症が昨年５月に５類に移行したことを一つの契機とし、今まで以上に「地域に開かれた学校作り」を推進しながら校内外の様々な人的・物的資源を積極的に利活用した教育活動やイベントなどを実施し、生徒や保護者の皆様と地域の方々、そして学校の三者の相互理解を進め、岩戸支援学校としてのミッションでもある地域の（支援教育の）センター的機能の充実や強化を図っていきたいと考えています。

「１５歳の壁」・・・２，３年前にそのような言葉をよく耳にしました。人間でもそれ以外の物事についても 15 年という年月は一つのターニングポイントになるのかもしれません。この４月に入学してくる新入生の皆さんにもぜひ岩戸支援学校への入学を人生の一つのターニングポイントにして、有意義な学校生活を送りながらこれからの将来についてじっくり考えてほしいと考えています。

最後となりましたが、保護者の方々、岩戸支援学校を支えていただいている地域の方々、日ごろより岩戸支援学校の教育活動にご理解・ご協力いただきありがとうございます。

それではまたあらたな１年間、どうぞよろしくお願いします。　　令和６年４月１日